



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がること、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年7月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

厚木市聴覚障害者協会「創立35周年記念イベント 厚木市総合福祉センター 6Fホール

7月13日(日)13時10分～ セレモニー 13時30分～ 講演会・LIVE

講師：RIMI氏 参加費：500円（当日集金）

ディズニーシーにて手話パフォーマーとして出演中!

申込締切7/2 FAX 046-223-7218 今井さんまで

～ '07 神通研集会報告 ～

「災害」に対してのグループ報告

グループ報告

- ・聴協・通訳者・サークルで「防災について考える会」を立ち上げる予定
- ・行政主催で障害者対象の防災訓練はある
- ・学習会を開催している
- ・いろいろな学習会へ出向き、情報を得る必要がある
- ・出先にも懐中電灯や避難地図を持ち歩いている
- ・聴障者も参加しての防災訓練を行っている
- ・災害時に安否確認が出来るようなシステム作りの必要性は感じている
- ・地域の災ボラにサークルも加入している
- ・聴障者の立場で工夫していることを知りたい

グループ報告

- ・災害の学習会に聴障者の参加が少ないことは残念に思う
- ・避難場所ごとの名簿を作成している
- ・防災訓練に通訳がないことがある
- ・災害時には聴こえないことをアピールし、情報を得る方法を考えることは必要だと思う
- ・災害時に一番大切なことは「自助」だと聞いた

～ 定例会 ～

6/21(土)定例会を開催しました。

横須賀ろう学校、横浜ろう特別支援学校からお二人の教諭をお招きしての神通研6月の学習会報告。熱心に教育に取り組んでいる姿に感銘を受けたとのこと。目まぐるしく変わる教育現場で、聴こえない子どもたちの心強い代弁者になってくださることでしょう。

情報交換の中では、手話の検定試験・通訳派遣・講師派遣が各地でいろいろな形で展開され始めているとの報告がありました。手話の商品化の波が押し寄せています。手話技術の習得だけでなく、地域の聴こえない人と一般社会とを繋ぐ役割を担えるサークルでありたいですね。

【次回定例会】7/21(月・祝)13:10～15:00

県民活動サポートセンター 704

～サークル研究班メンバーのささやき～

小学校を卒業したとき、校長先生が卒業生一人ひとりに一言書いた色紙を贈ってくれました。

私がいただいたのは「和顔愛語」

意味は、なごやかな表情と親愛の情がこもった言葉づかいのことで、元々は仏教の教えに出てくる言葉だそうです。

その色紙をいただいて以来、私の座右の銘となりましたが、小学校を卒業して20数年……

あまり実践できておりません……

鬼の形相・鬼の物言いにならないようがんばります。

猫になりたい